

「言葉の存在」

粉河中学校 3年 井関 雛花

もしこの世界から言葉がなくなったら。想像したことはありますか。私は今回、言葉の大切さについて考えていこうと思います。

私はよく友達とすれ違うことがあります。そんな意図で言ったんじゃないのに、なんて誤解されたりした時は、言葉が足りなかったなと思います。けど、メッセージのやり取りをしている時に、なんて返そう、これはちょっときつく見える？なんて色んなことを考えます。そんな時は、言葉って難しいな、と思います。他にも、姉との喧嘩でしょっちゅう言い合いをしますが、最近は言い合いすらせずに無視するのがほとんどです。そういう時は大抵仲直りに時間がかかります。

こんな風に、自分の気持ちや考えを言葉にして伝えるってすごく難しいことだと思います。皆さんにも、こういった経験があるのではないのでしょうか。言葉にして伝えると、トラブルや喧嘩につながることもあります。だから、私は言葉にするのが怖いのだと思います。でも、そういう喧嘩ってむしろあった方がいいと思うのです。よく、相手の気持ちを考えよう、などと言ったりしますが、言葉にしないと伝わらない他人の感情を想像するなんて、矛盾していますよね。もちろん、感情を伝えるのは言葉だけではないけれど。それでも、自分と全く同じな訳がないのだから、表情や行動で全て察せなんて無理な話です。でも、完全には理解できなくても、想像することに意味があるのだと思います。そこにはきっと、思いやりや優しさが生まれるだろうから。

以前、国語の「質問と反論」という単元で、例文にこんなものがありました。

「相手を敬う気持ちがあればいいのだから、敬語は使わなくていい。」

と。当然私はそれは違う、と思いました。相手を敬う気持ちがあっても、言葉にしなければ伝わらないのだから、敬語は必要だ、と。

私は、やはり言葉に表すことは大切だと思いました。敬語さえ使っていればそれでいい、なんてことは決してないけれど、その人への敬意は必然的に呼び方や言葉遣いに出るのではないかと思います。尊敬しているなら、上の立場だと思っているのなら敬語、仲良くありたいと思っているのなら対等な口調、少なくともその間には差があり、その人との関係性に大きく関わっていると思います。これは、言葉があるからこそその区別でしょう。

また他にも、言葉がなくなれば本や小説もなくなるでしょう。私は読書が好きだし、丸一年読み続けるほど熱中したものもあります。この世界の全員が読むべ

きだすら思ってしまうほどにです。その物語を、世界観を、感動を、共有できないのはとてももったいないと思いませんか。この世界には素晴らしい想像力を持った人や知識を持った人、見つけた人もたくさんいて、それなのにそれらをその人の中で完結させてしまうのはとてももったいないし、それこそつまらない。進化も発展もしない世界だな、とあってしまいます。

ここまで話した通り、言葉はこの世界に欠かせない存在であると思います。無くなれば困るのは当然、この世界から面白みさえ奪ってしまうでしょう。失ってからその大切さに気付く、なんて言うことがあります。この言葉を聞いた時、後悔しかない、と思いました。だってもう失ってしまっているのだから。ですが、失う前に失った時のことを想像すれば、大切さに気付けるのではないのでしょうか。当たり前にあるものを当たり前のように思わないのは難しいことだけれど、大切さに気付くことでより有効的に利用できるでしょう。改めて考えると、言葉ってすごく有意義なものではないのでしょうか。感情や意思を伝えるのにこれ以上に便利なものはないのに、それを疎かにするのはもったいない。これをきっかけに、言葉の大切さに気付いてくれる人がいれば嬉しいです。

